

関西学院大学 研究成果報告

2026年04月06日

関西学院大学 学長殿

所属：教育学部
職名：教授
氏名：辰己 隆

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	☒ 特別研究期間 ☐ 自由研究期間 ☐ 大学共同研究 ☐ 個人特別研究費 ☐ 博士研究員 ※国際共同研究交通費補助については別様式にて作成してください。
研究課題	社会的養護における児童養護施設のあり方について
研究実施場所	児童養護施設等数か所、岡山県、福島県、法政大学、個人研究室他
研究期間	2025年04月01日 ～ 2026年03月31日（12ヶ月）

◆ 研究成果概要 （2,500字程度）

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

1、特別研究期間におけるテーマと問題の所在 研究テーマは、「社会的養護のあり方について」である。児童養護施設は、要養護児童の養育保護について、長年培ってきた実践と実績がある。まずは、児童養護施設の本体施設の整備・職員配置の充実、そこを安定させてから、家庭的養護であるグループホーム、自立援助ホームの整備・職員配置の充実、そして家庭養護である里親への推進、フォスターリング機関の強化をする。でないと、里親推進ばかりで、フォスターケア・ドリフトがあった場合、子ども達の受け皿があるのか、どの様な対応するのか甚だ疑問であると考察し、これを具体的な問題の所在とした。 そして、これらを実証研究する為に、2025年度特別研究期間を頂き、全国の児童養護施設等を訪問、また、関連する協議会、学会等の参加を通して、調査・研究する事を目的とした。 2、施設見学とインタビュー等による調査内容等 問題の所在、研究の目的 前述の通り 調査内容 2017年の「新しい社会的養育ビジョン」に掲げている家庭養育の推進、施設の小規模化、多機能化、高度化、地域分散化の実態について児童養護施設等数か所の現況調査をした。 調査方法 調査対象としている児童養護施設等と訪問調査のアポイントを取り、質問事項等について、インタビュー等を実施した。 対象者 今回、「措置」の関係から、インタビュー等については、施設名等も含めて、特定されると様々な問題が発生する可能性があるのと個人情報保護の為、研究報告等では開示しない。

具体的には、4月、5月、6月、7月、8月 毎月1か所程度 児童養護施設等へ訪問調査を実施した。

3、施設見学とインタビュー等の調査結果によるまとめ

児童養護施設には、要養護児童の養育保護について、長年培ってきた実践と実績がある。まずは、児童養護施設の本園である本体施設の整備・職員配置の充実、そこを安定させてから、家庭的養護である小規模グループケアや地域小規模児童養護施設の整備・職員配置の充実、そして家庭養護である里親への推進、フォスタリング機関の強化をするべきではという提言に賛同する施設が多数見受けられた。

また、地域ではなく、施設内を小規模グループケア化するという方向で考えているという意見もかなり見受けられた。

4、児童養護施設の先達者である石井十次の軌跡等を視察

2025(R7)年09月17日(水)～09月18日(木)、研究テーマにある児童養護施設について、日本で最初の孤児院と言われる岡山孤児院を創設し、生涯を孤児救済に捧げた石井十次による礎の軌跡を追った。また、岡山藩によって開かれた旧閑谷学校は、庶民を対象とした日本で最も古い学校で、現存する学校としては世界最古であるので、福祉教育学視点から、調査研究、視察をした。

具体的には、09月17日(水)、①岡山孤児院発祥の地(岡山市東区上阿知)石井十次が明治20年に、この地で困窮者の子を引き取り、孤児院救済教育の活動の緒になった場所を調査研究、視察をした。②岡山孤児院創立の地(岡山市中区門田屋敷)石井十次が明治20年(1887)、貧児2名と共に岡山市の三友寺の一室を借り受け、「日本孤児教育会」を設立、創立し、後に「岡山孤児院」と改称した地を調査研究、視察をした。

09月18日(木)、③倉敷アイビースクエア(岡山県倉敷市本町)大原孫三郎が、設立した倉敷紡績所の本社工場を再開発した施設である。大原孫三郎は、石井十次を全面的にサポートしたことで有名である。その支援者が、設立した倉敷アイビースクエアに宿泊し、調査研究、視察をした。

④旧閑谷学校(岡山県備前市閑谷)江戸時代に岡山藩によって開かれた庶民のための学校で「旧閑谷学校」として特別史跡に指定されている。日本最古の庶民学校であり、藩立の学校として開かれた史跡について、調査研究、視察をした。

5、「第78回 全国児童養護施設長研究協議会 福島大会」に参加

2025(R7)年11月11日(火)～12日(水)、戦災孤児の保護から社会的養護を担い続けてきた児童養護施設について、今日の社会に求められる使命の理解を深める機会として、施設関係者が一堂に会する「全養協 福島大会」に参加し、研究及び協議を行う場とした。出張先は、福島県郡山市ビックパレットふくしまである。

今大会のテーマは、「子どもが未来を思い描く養育とは ～戦後80年、すべての子どもの幸せな暮で、約700名の参加者があった。

6、「日本児童養護実践学会 総会・第18回研究大会 法政大学」に参加

2026(R8)年02月28日(土)、児童養護施設の状況は、2016年の児童福祉法の改正、続く2017年には社会的養育ビジョンが出され、子どもが「より家庭に近い環境で養育されるように」という流れの中で10年近く過ぎた。この間、里親の委託率は増加してきているが、コーディネーションの「不調」による委託解除の課題も生じている。一方、児童養護施設の内実は、児童養護施設の小規模化・地域分散化、さらに求められる高機能化・多機能化の中で、施設職員そして子どもたちに、どのような変化が見られたのか。そこには、地域における格差も考慮していく必要があるのではないかという課題が生じている。そこで、施設および里親関係者、研究者が一堂に会する「日本児童養護実践学会」に参加し、研究向上及び協議を行う場とした。

大会テーマは、「どうなる？ どうする？ 児童養護施設のこれから」であった。

7、2025年度特別研究期間の報告

繰り返すが、児童養護施設には、長年培ってきた実践と実績がある。まずは、本体施設の整備・職員配置の充実をする。次に、小規模グループケアや地域小規模児童養護施設の整備・職員配置の充実、そして、家庭養護である里親への推進、フォスタリング機関の強化をするべきであるという提言に確信を持った。

さらに、「岡山孤児院の12則」の家族主義からも窺える様に、地域ではなく、施設内を小規模グループケア化するという方向も良策と考察した。

本研究を通して、「新しい社会的養育ビジョン」に掲げている児童養護施設等における家庭的

環境での養育推進、施設の小規模化、多機能化、高度化、地域分散化については、本体施設の更なる具体的なグレードアップが必須であると考察し、今後の研究課題としたい。
最後に、この特別研究期間を頂いた関西学院大学に深く感謝し、多謝を申し上げます。

以 上

提出期限：研究期間終了後2ヶ月以内

※個人特別研究費：研究費支給年度終了後2ヶ月以内 博士研究員：期間終了まで

提出先：研究推進社会連携機構（NUC）

※特別研究期間、自由研究期間の報告は所属長、博士研究員は研究科委員長を経て提出してください。

◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。